

活動状況

北斗市環境保全活動組織（ホッキ貝、アサリ漁場）

北斗市は、函館湾内に広がる干潟等の漁場を有しており、ホッキ貝やアサリ等の二枚貝類の棲息漁場となっています。この二枚貝類が地域の環境保全に大きな役割を果たしていると考えられることから、地元では水産多面的機能発揮対策事業を導入した積極的な「干潟等の保全」活動を展開しています。

活動は、耕うんを中心として、沖側のホッキ貝漁場はマンガン曳き、陸側のアサリ漁場は手堀を取り入れ、構成員自身の手作業で実施されています。

①耕うん：漁場を耕すことで、通気性を良くし底質を改善し、棲息環境を整備する。

②客土：土砂を搬入することで、地盤高の維持、底質の安定等で環境を改善する。



【ホッキ貝漁場の耕うん】



【アサリ漁場の客土】



【アサリ漁場のケアシェル散布と耕うん】



③モニタリング：二枚貝漁場の状況を把握し、保全活動の効果を評価する。



【ホッキ貝漁場の生息状況調査】



【構成員による状況把握】



【ホッキ貝突き採り漁業】

写真は、一部を除き北斗市提供

北斗市のホッキ貝漁業は、鉄製の爪（ヤス）を付けた長い竿で一個ずつ漁獲する突き採り漁業であり、北斗市の前浜だけで行われている伝統的な漁法です。また、アサリ漁業は、干潮時に広がる干潟で手堀で行われており、ホッキ貝漁業と共に見応えのある風物詩となっています。

このような地域資源を守ることも大切なことであり、ここでも「干潟等の保全」活動が重要な働きをしています。